

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

開拓使ニ於テ北海道開拓ノ先願
證券ニ發行シテ其ノ換金ニ并組
ニ取扱相命シテ其ノ規定古ノ如ク

才一條

一 預置券ハ即今既ニ發行シタル證
券ト全く同様ノ形物ト爲ルニ開拓
使ノ發行シテ其ノ換金ニ并組ノ名目
ト以テ發行スル

お産租税の自由を引揚是際を以て
之并租にて引揚る也

但正金に及ぶ迄は新貨幣を引
換準備に繰入以て人々は且期
限の後より之并租を去るは
即刻に証券券を引揚方と爲す
もの之并租より惜多る引高の
証券券に與ふ也一尤有爲言即刻

に証券券の恣に貸附方ホテ而前
より多く若くは授事状より
節に与振付より立行容と爲
る上より也

才 四條

一証券發行より即刻に并租を以て
之に付証券製造に紙代銅板轉爐
振替等の不費と爲す外一切の費用は之

井俎ヨリ其辨の趣一

才 六條

一聞板仗ヨリ其証券の準備金歳終
と之井俎カ其証券ヨリ其後之井俎ヨリ
大蔵省ヨリ其趣一

但之井俎証券に於ける準備金
と時々大蔵省中實支ヲ出シ検査
と之井俎ヨリ其趣一

才 六條

一證券引換會外ニ箱館表指後
證券引換の何時ニ至ル引換の趣尤由地
流通の趣一其の必然之事故更今引
換の趣の考ふる節其の趣又引換の趣
は其の東京大板の趣一之井俎の趣先
其の證券引換行の趣一其の趣一
其の趣一

才七條

一引真望し若五分の備金引置り
 常の宗館より始り其地方役所は彼
 らより置り引置りせよ一は之を
 常の宗館より置りて定額金引置り
 洵は此の如く人民を以て論議す
 信じて之より先んじて置りて

才八條

一第一班事、兵の取らぬ事、
 以用途多増し申上り準備金ハ
 改訂前より倍せしむ且も盜其外
 果ては其宗館に預りたる準備
 金より論議券の二并組に度中
 或は途中申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り

得て天災の如く非常の兵變を

おぼしめし

有る通り規則を定めて

なすこととす

也

明治四年庚申二月

黒田閑孫次官

為 務 所

二 年 紀

乃 若 左 三 升

乃 節 右 三 升

各 代 五 條

三 年 紀 刊 行

奉差上候一札之事

一今般北海道般夫函館夫之用拓取開二
 相成候^二身依^三於合此度為換座三井組之
 名目^二而新賃證券^三區遣^四出^五之^六相^七集^八引
 晉元^一儀夫^二所規^三幻^四以被^五仰渡奉農
 惠^六借^七申^八上^九候^{一〇}依^{一一}之^{一二}所^{一三}規^{一四}則^{一五}之^{一六}通^{一七}右^{一八}遣^{一九}出^{二〇}之^{二一}
 澄^{二二}券^{二三}高^{二四}之^{二五}内^{二六}貳^{二七}割^{二八}ヲ^{二九}私^{三〇}苦^{三一}組^{三二}七^{三三}手^{三四}限^{三五}リ^{三六}區^{三七}任^{三八}
 七^{三九}二^{四〇}五^{四一}集^{四二}群^{四三}之^{四四}任^{四五}合^{四六}奉^{四七}存^{四八}候^{四九}然^{五〇}之^{五一}八^{五二}其^{五三}券^{五四}